

とにかく、突っ走ってください

神戸大学一本、私立も後期も受けない。蓋を開ければ不合格。得点开示によれば、Cランクでの不合格、つまり合格可能性は、ほぼ無かったということだった。

さて一年の浪人生活が始まったわけだが、まずは自分に足りなかったものと、これから得られるものを考えよう。足りなかったのはもちろん、受験情報でも良キライバルでもなく僕個人の能力だ。これから得られるものは、一年と

いう、勉強だけに捧げられる時間。現役生のときには通っていなかった塾にも、通えることになった。どこまでやれるかは分からないけど、目標は高い方が良い。そう思って京都大学を目指すことに決めた。

予備校選びの際はとにかく、講師の方々と時間をかけてやりとりが出来るか、という点を重視した。京大を受験する脳ミソに程遠い自分は、自分だけで勉強したってどうにもならない。一年、得意も不得意も忘れて、全教科イチから

勉強しようと思え、それには自己流の勉強法を改善してくれる人が必要だった。他力本願だと反駁されるかもしれないが、自己流で失敗して、何が駄目かも分からない者に、もうすぐる自力は残っていない。とはいえ京大と戦う勉強を前に、不得意だった科目では余計に無知を自覚し、得意だった科目でも、周囲の京大志望の生徒の前には平均程度にしかスコアが出ず、挫折に挫折を重ねた。が、勉強が楽しくなかった訳ではない。むしろ、高校時代には目に

することすらなかった難問が徐々に解けるようになることが楽しいと思えるようになった。

そうして一日を勉強に捧げ、夏には朝四時の起床で朝型の習慣を作りつつ、九月の京大系模試ではB判定を出すことができた。同時に、二次試験対策中に関心を抱いていた歴史を大学でも学びたいと思い、志望学部を文学部に決めた。そして得意の英語と国語を磨けば特色入試に挑めるかも知れないと思った。

京大文学部の特色入試は二段

階で行われる。大学で学びたいことや将来の目標を書いた「学びの設計書」ならびに高校時代の活動を記した活動報告書による書類審査が一段階。これを通過して次段階の論文試験へと進む。午前の部では課題文に対し「学びの設計書」をふまえて意見をのべ、午後は英語と日本語それぞれで書かれた2つの課題文を読んで題に沿った論を展開する。

この試験ではもちろん読解力と英語力が必要になるが、求められるものがそれらに留まらないこと

は明らかだ。不可欠かつ高度に要求されるのは「考える力」と「発信する力」である。僕はこれらの力を鍛える場が奈良女での様々な活動であったと伝えたい。僕は中高6年間、本当に多くのことに手を出した。何度あたらしいことに挑戦しても力不足が表面化して、どれもこれも不完全燃焼、多くの仲間に迷惑もかけたが、そのすべてにおいて、考えることと、伝えることを放棄することはなかった。これを読む後輩諸君のなかにも、何にでも手を出して、うまくは

いっていなくても、考えはたくさんあって、それらを伝えることに楽しさを感じるひとがいるはずだ。その感覚は大事にしてほしいと思うし、今のまま突っ走れば良いと言いたい。奈良女なら、突っ走るコースはいくらでもあるし、読解力や英語力が足りなくても、一浪してなんとかなったりもする。とにかく、奈良女にいる間に、たくさんのことを考え、それを伝えあう経験、つまり奈良女でこそ深められる経験をたくさんしてほしいと思うし、実際そうしてきたことが特色入試

合格に繋がったと思う。

とは言っても論文試験後は合格を確信したわけではなく、あくまでも一般入試で合格するという最初の目標は譲っていなかったもので、もちろん引き続き猛烈に勉強した。

この浪人記の主題は中高の経験と浪人時の心境の変化との繋がりにあるので細かい学習法については触れないが、浪人する際は自分に嘘はつかず、バカな自分を受け入れ、一方で中高の経験を惜しみ無く活かそうなら活

かしてみると、幸運が舞い降りる  
こともあると知っておいてほしい。

とにかく、なにか手が出せそう、  
あるいは手を出したいものがあった  
て迷っているなら、これを読んで  
もう、迷ってはいけない。以上の  
意味で、「奈良女時代」を、謳歌せ  
よ。